

揖斐川流域新五流総地域委員会（第12回） 議事概要

日時：令和5年8月22日（火）10:00～12:00

場所：岐阜県西濃総合庁舎 大会議室（大垣市江崎町422-3）

1. 議事

- (1) 規約の改正について
- (2) 「揖斐川流域における総合的な治水対策プラン」の進捗について
 - 1) ハード対策（河川整備、耐震化、長寿命化）
 - 2) ソフト対策
 - 各市町の取組みについて（大垣市、養老町、揖斐川町）
- (3) その他
 - ①流域治水の推進について 【県河川課】
 - ②新五流域総合治水対策プランの改定に向けて 【県河川課】
 - ③県内の水辺空間活用事例について 【県河川課】
 - ④岐阜県川の防災情報の機能追加について 【県河川課】
 - ⑤水難事故防止に向けた啓発 【県河川課】
 - ⑥砂防部局の取組みの共有について 【県砂防課】
 - ⑦揖斐川左岸堤防の嵩上げ工事について 【国木曾川下流河川事務所】
 - ⑧木曾三川下流部バーチャルツアーについて 【国木曾川下流河川事務所】
 - ⑨ダム の 事前放流と令和5年台風第2号の対応について
【国木曾川水系ダム統合管理事務所】
 - ⑩「顕著な大雨に関する気象情報」の新たな運用について【岐阜地方气象台】
 - ⑪令和4年度中部管内における洪水調節の実績について【(独)水資源機構】

2. 議事要旨

(1) 規約の改正について 【資料1】

事務局より、資料1を用いて規約改正案（委員及び幹事会構成員の変更）の説明がなされ、異論なく改正案が承認され、同日付けで施行された。

(2) 「揖斐川流域における総合的な治水対策プラン」の進捗について

【資料2】【大垣市資料】【海津市資料】

初めに、事務局より、揖斐川流域における総合的な治水対策プランの進捗について、資料2及び資料2別紙1～3を用いて、ハード対策とソフト対策の全般的

説明があり、具体例として、杭瀬川、水門川、津屋川、相川・大谷川、白石川における河川改修、旧水門川排水機場における長寿命化対策等が紹介された。

これらについて、下記3点の質疑があった。

質疑

(森委員)

- ・資料2、5ページの水門川の治水対策である河道拡幅について、治水安全度を高めるための対策として意見を述べるものではないが、大垣市において水門川は、歴史的な意味を含めて非常に重要な河川に位置づけられていると思っている。現在、大垣市は「水都再生プロジェクト」事業を進めており、当該治水事業に関しては、それを反映されることはないかと思うが、今後、大垣市と水門川まちづくりに関しての密な協議をお願いしたい。

→ (事務局)

市街地を流れる河川であり、過去から大垣市におかれては水門川沿いの景観整備を進められており、そうしたまちづくりも踏まえて治水対策も進めていくべきと考えている。近年の河川整備では大垣市役所新庁舎整備に合わせて、「かわまちづくり」の一環として自然石の護岸を整備した。現在改修している区間についても、まずは俳句の句碑等の既設構造物の復旧のみではあるが対応していく。今後も引き続き大垣市と相談しながら河川改修を進めていきたいと考えている。

(森委員)

- ・資料2、7ページの津屋川の河川改修事業について、自然の湧水池を有効活用することを検討された方がよいと考えており、両岸に堤防をつくって水を閉じ込めることは、流域治水の思想と反するのではないかと思う。それについてはどう考えているか。

また、地元との協議によるものと思うが、右岸堤と左岸堤の間に盛土や高台が作られたことで、水の流れる部分が損なわれていて治水安全度を上げる計画との整合性が無いように思える。さらに、津屋川は、現在浚渫する必要があると考えており、浚渫を先に実施した方が治水安全度は高まると思う。土砂堆積速度などの研究論文も書いているので最新の知見と科学の進展を合わせながら治水事業を進めていただきたい。

→ (事務局)

現在、下流の海津市戸田地区において、湧水池を保全するような右岸堤の法線について検討しているところであり、ご意見を伺いながら進めていきたいと考えている。また、過去から津屋川の整備順序について地元と協議をして進めているが、土砂堆積速度等の最新の知見も踏まえて、治水安全度を高め、

河川環境を守る河川改修について、地元の意見や森教授の助言をいただきながら検討してまいりたい。

(森委員)

- ・資料2、15ページの大垣北高等学校の貯留を令和5年5月19日にしたとのことであるが、どこからの水でどれくらいの水深であったか、貯留効果は結構あったと考えていいのか。

→ (事務局)

貯留している水は、大垣北高等学校のグラウンドに降った雨である。当日の貯留水深のピークは夜間であったことから、水深の詳細は把握できていないが、今後、降雨時には施設の状況も注視して、具体的な効果量について確認することを検討していく。

(藤田委員長)

- ・校舎の屋根などを含め、敷地内に降った雨が入ってくることはないのか。

→ (事務局)

基本的には、グラウンドに降った雨を貯留している。

(森委員)

- ・流末に堰などを設けて意図的に貯留している構造であり、貯留した水は流そうと思えば、流せる構造であるのか。

→ (事務局)

そのとおりである。

コメント

(森委員)

- ・校庭の貯留は良い事例になると思うので、降雨時にはデータ等を残し、その効果量や必要に応じて田んぼダム等についても検討されたい。
- ・津屋川の河畔林は、かつて無かったものではあるけれども、保護する対象が存在すると思うが、流下の阻害になっているので、個人的には除去した方がよいと考えている。

続いて、大垣市、養老町、揖斐川町から、資料あるいは別紙3を用いて、ソフト対策の取組について、以下の情報提供があり、質疑があった。

【大垣市】

市民の防災意識の向上や災害時の的確で迅速な避難につながるようなDXの取組みについて、資料を用いて、以下の3点を説明。

1) 「避難所受付支援システム」

事前に登録したスマホをかざすだけで受付が完了し、施設の混雑状況をリアルタイムでリモートでも確認できる「避難所受付支援システム」の開発を行い、令和4年4月から運用を開始した。住民への周知方法としては、動画のほかに市公式SNSや市ホームページ「大垣市防災ポータルサイト」で知らせるとともに、事前登録方法を案内するチラシを全戸配布した。

2) 「スマホで防災訓練」

若い世代にも楽しめるデジタル防災訓練アプリを開発し、「おおがき防災フェス」や防災リーダー養成事業の一環として中学生を対象として開催した「ジュニア防災士養成講座」においてアプリ体験をしていただき、並行して、アプリの紹介チラシを自治会や小中学校で配布した。

3) 「防災備蓄管理システム」

システムを導入することで備蓄状況の見える化を図り効率化を実現した。現在、市役所のみで使用しているが、今後自治会等での利用を呼びかけていく。

質疑

(藤田委員長)

・「避難所受付支援システム」等について、現在利用可能かなど確認したい。

→ (大垣市)

現在 稼働しており、先日台風7号の際にも災害対策本部に避難者の人数等の情報が随時入るように実用化されている。

「スマホで防災訓練」も実用化されており、防災訓練や教育現場で活用されている。

【養老町】

届出避難所認定制度や防災士養成事業について、資料を用いて、以下の2点を説明。

1) 「届出避難所認定制度」

町内39箇所の避難所の不足等の改善を図ることを目的とし、令和4年度は6か所を認定した。

2) 「防災士養成事業補助金」

「自助」「共助」を高めるための取組みであり、令和5年度は海津市と共同で開催し、海津市文化会館の開催と近場であることもあり、例年より多く、現在20名が受講中。

質疑

(藤田委員長)

- ・防災士養成講座について、海津市との共同開催は効果的で有意義な活動であるが、追加や補足の情報提供はあるか。

→ (養老町)

これまでは岐阜市に行かなければならなかったが、比較的近い会場の開催とした今回は、15名募集に対して20名応募があった。このことから、海津市との共同で受講定員の確保が見込め、近場で開催できたことが増加の主な要因であったと考えている。

【揖斐川町】

資料2別紙3を用いて、以下の3点について説明。

- 1) 情報伝達システムの充実として、防災行政無線をデジタル化して完全無線化する事業を進めている。運用開始は、令和5年12月の予定。
- 2) 防災意識の向上として、令和2年度に新基準に基づいた防災ハザードマップに更新している。そこでは、ハザードマップの縮尺や範囲を地区ごとに変更する等、見やすいように工夫をした。
また、町全体マップ、災害情報の内容、非常持ち出し品等の情報を記載した冊子を小学校に配布し、小学生からの防災教育を推進するとともに、防災訓練は、従来の「見る訓練」から「参加する訓練」に移行している。
- 3) 水防活動の支援として、木曾川上流河川事務所や関係機関と合同で揖斐川の重要水防箇所への巡視、越美山系砂防事務所による各小学校での砂防学習の実施等、各関係機関と連携して防災活動を継続して実施している。

質疑

(藤田委員長)

- ・ハザードマップ等のデジタル化についてはどのような状況か。

→ (揖斐川町)

紙で全戸に配布し、町ホームページで地区ごとのPDFデータを公開している。

(3) その他

議事次第に沿って、まず①～⑤について県河川課からそれぞれ資料3～7を用いて、ついで⑥について県砂防課から資料8を用いて、⑦と⑧について木曾川下流河川事務所から資料9と10を用いて、⑨～⑪についてそれぞれ資料11～13を用いて、木曾川水系ダム統合管理事務所、岐阜地方气象台、(独)水資源機構中部支社の、それぞれの担当者から情報提供がなされた。

その内容や質疑等の概要は以下の通り。

① **流域治水の推進について【資料3】**

流域治水について、岐阜県が取り組みを進めている事例とともに説明。

② **新五流総総合治水対策プランの改定に向けて【資料4】**

現プランへの改定から10年目の短期目標最終年度となる令和5年度に事後評価を行い、短期目標の達成度や課題等を明らかにした上で、「流域治水」等の新たな取り組みも含めたプランへと改定する予定。

次回以降の地域委員会において流域ごとに設定した次期目標について意見交換（対面、書面の方式は検討中）を実施予定。

③ **県内の水辺空間活用事例について【資料5】**

岐阜県が取り組みを進めている事例とともに説明。

④ **「岐阜県川の防災情報」の機能追加について【資料6】**

市町村防災担当者向けのページの運用を令和5年6月5日から開始。

⑤ **水難事故防止に向けた啓発【資料7】**

岐阜県が進めている啓発活動について、啓発チラシとともに説明。

⑥ **砂防部局の取り組みの共有について【資料8】**

岐阜県が取り組みを進めている事例とともに説明。

⑦ **揖斐川左岸堤防の嵩上げ工事について【資料9】**

工事予定について説明。

⑧ **木曾三川下流部バーチャルツアーについて【資料10】**

ドローンを200m間隔で飛ばして360°撮影し、グーグルマップのストリートビューのいわば川バージョンを作成し、揖斐川（河口部）・長良川・肘江川について公開を開始。

質疑

（藤田委員長）

- ・精緻な画像だと重くなるが、一般のスマホやパソコンでの閲覧はどうか。
- （木曾川下流河川事務所）

一般的なインターネットブラウザで動作するため、スマホやパソコン等でストレスのない閲覧が可能。

⑨ **ダムの事前放流と令和5年台風第2号の対応について【資料11】**

事前放流の態勢整備や令和5年度「台風2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨」の実績について説明。

⑩ **「顕著な大雨に関する気象情報」の新たな運用について【資料12】**

今年度から「顕著な大雨に関する気象情報」を最大30分程度早く発表する運用を開始。

⑪ **令和4年度中部管内における洪水調節の実績について【資料13】**

令和4年度の実績について説明。

関連して、以下の依頼と回答があった。

依頼

(藤田委員長)

- ・流域治水を進める中、本日参加されている中部電力(株)岐阜水力センターから情報提供はないか。

→ (中部電力(株)岐阜水力センター)

揖斐川水系の徳山ダム、横山ダムの下流に位置する所管利水ダムの久瀬ダム、西平ダムにおいて、治水協定に基づいて水位の低下をさせた運用をしており、今後も協力していくことを考えている。

○全体を通じてのコメント等

以下のコメントがあった。

コメント

(藤田委員長)

- ・岐阜県が取り組んでいる水難事故の取組みについて、楽しいはずの河川のレクリエーションが、悲惨な事故になることを避けられるように、引き続き啓発活動をお願いしたいと思う。
- ・今後、顕著な大雨の頻発化あるいは、激甚化は避けられないと思われ、「共助」をベースとした行政、河川管理者の「公助」支援を推進していただくとともに、底支えとしての着実な治水ハードの整備を進めていただきたい。

- ・経験したことの無い降雨への対応を想定する等、少しでも被害を軽減していくように、本委員会を今後も活用していただきたい。

以 上